



2021年11月18日

各位

会社名 株式会社白鳩
 代表者名 代表取締役会長 池上 勝
 (コード：3192 東証JASDAQ)
 問合せ先 IR広報室長 池上 正
 (TEL. 075-693-4609)

新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書

当社は、2022年4月に予定される株式会社東京証券取引所の市場区分の見直しに関して、2021年10月13日スタンダード市場を選択する申請書を提出いたしました。当社は、移行基準日時点(2021年6月30日)において、当該市場の上場維持基準を充たしていないことから、下記のとおり、新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書を作成しましたので、お知らせいたします。

記

○ 当社の上場維持基準の適合状況及び計画期間

当社の移行基準日時点におけるスタンダード市場の上場維持基準への適合状況は、以下のとおりとなっております。流通株式時価総額については基準を充たしておりません。当社は、流通株式時価総額に関しては2024年に、上場維持基準を充たすために各種取組を進めてまいります。

	株主数	流通株式数	流通株式 時価総額	流通株式 比率	1日平均 売買代金	時価総額
当社の状況 (移行基準日時点)	2,016人	25,013単位	6.8億円	37.5%	—	—
上場維持基準	400人	2,000単位	10億円	25%	—	—
計画書に記載の項目	—	—	○	—	—	—

※当社の適合状況は、東証が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

○ 上場維持基準の適合に向けた取組の基本方針、課題及び取組内容

1. 基本方針

当社は、第48期、第49期と2期連続の営業損失および経常損失ならびに当期純損失を計上し、2021年4月13日に公表した修正中期経営計画では、第50期においても営業損失および経常損失を見込んでおります。このような業績不振による株価低迷が流通株式時価総額の基準を充たしていない事態を招いたと認識し、まずは業績不振から脱却し、利益を計上することで早期に復配することが、株価の回復、ひいては株式会社東京証券取引所の定める上場維持基準を上回るための、最短手段であると考えております。

2. 課題及び取組内容

当社は、2021年4月に取締役担当委嘱の変更をおこない、5月に取締役を4名体制にし、社内改革を進めております。進行期である第50期第2四半期決算では、営業損失および経常損失ではありますが、当初の計画からは損失を大幅に圧縮いたしました。道半ばではあるものの社内改革の効果があらわれてきていると感じております。引き続き以下の課題と取組みを中心に進めて参ります。

- ✓ NB（ナショナルブランド）メーカーのEC市場参入による競争激化に対応するため、PB（プライベートブランド）商品の拡充
- ✓ 少しでも早くお客様に商品をお届けするため、マテハンシステムを含む物流センターの最適化による出荷能力向上
- ✓ 不採算事業からの撤退による経費圧縮と収益改善
 - ・海外事業のうち本店グローバルサイトにつきましては、黒字化が見込めないため、2021年8月31日をもって閉店いたしました。
 - ・託児所事業につきましては、赤字拡大要因となっているため撤退いたします。
 - ・システム販売事業につきましては、現在進行中の案件納品完了後に、事業継続の可否について精査いたします。

当社は、価格、商品価値、顧客サービスにおいてさらなる差別化を図り、お客様に感動をお届けできる企業となることが最重要課題であると認識しておりますが、先ずは、2021年4月13日発表の修正中期経営計画における現在進行期である第50期計画達成と、翌第51期計画を達成し黒字化することが、重要課題に取り組む新たな第一歩とし、早期に流通株式時価総額基準への適合を目指してまいり所存です。

加えて業容拡大に併せた経営体制の強化を図ることを目的とした組織変更を行い、各種課題に継続して取り組んでまいります。

	第50期 計画	第51期 計画	第52期 計画
売上高	6,200	7,000	7,500
うち 国内EC	5,683	6,445	6,915
うち 海外EC	200	210	215
うち 卸販売	172	200	220
うち システム販売等	45	45	45
うち 店頭販売等	99	100	105
営業利益	▲110	270	320
経常利益	▲140	250	300
減価償却費	234	210	200

以上